カナダ大使館案内

東京・青山の一角に構えるカナダ大使館。道ひとつへだてて東宮御所があり、官庁街の霞が関は目と鼻の先だ。日加間の外交関係が正式に樹立された一九二九年以来、カナダ政府はここを中心に日本との外交業務や商務活動などを続けてきた。以来五十年余の日加関係の拡大・緊密化を反映して、大使館の業務は大幅に広がり、それとともにスタッフの数も総勢百数十人に増えた。そこでスティアズ新大使の着任を機会に、当大使館の各部門の業務活動とそれぞれの担当者を紹介することにした。カナダ大使館にご用のある方は、ぜひご参考にしていただきたい。またさまざまな分野における大使館の活動を通じて、日加関係への理解も深めていただきたい。大使館だけでなく、州政府東京事務所も紹介した。なお、ここで取り上げたのは、外部とかかわりの多い部門と担当者だけであって、大使館業務を支えているのはそれだけでないのはもちろんである。秘書、翻訳官、補繕係、運転手、資料係、電話交換手、郵便係、経理、総務・人事担当、守衛、テレックス・オペレーターなど、すべて欠かせない存在だ。

アーウィン公使

カナダと日本は、重要な貿易相手国同士として、またサミット（先進国首脳会議）に参加する西側先進工業国同士として、最近一層絆を強めてきた。相互の関係が深まるにつれ、駐日大使館の役割や業務も拡大し、職員の数もカナダの在外公館の中では最大規模に入る。ジョン・アーウィン公使は、こうした中で、政治、領事、総務、広報、防衛、移住といった分野を統轄している。

テイラー公使

大使館の経済関係すべてを統轄しているのが、ジム・テイラー公使（経済・商務担当）である。商務部の活動の重要性から見て公使の統轄任務の中心部分は、商務計画ならびに政策目標にある。

公使はまず高官レベルの政府協議に参加し、またキャンドゥ炉の輸出促進や日本向け石炭の新規炭鉱開発プロジェクトなど、カナダにとって特に重要な大型プロジェクトをめぐる協議にも関係している。

商務部

カナダと日本の経済関係はますます緊密化し、日本はカナダにとって米国に次ぐ第二の貿易相手国となった。両国は日加経済協力大綱などの取り決めや経済合同委員会、民間の経済人会議などを通じて、一層協力態勢を強めている。

こうした経済関係を推進しているのが商務部。日本市場へのカナダの輸出を促進し、両国の通商関係を一層発展させるのが主な任務である。

従来から行っている商務部の主な仕事は、カナダの輸出業者から引合いがあった場合に日本の輸入業者を斡旋したり、また逆に日本の輸入業者の問合わせに応じ、カナダの輸出業者を紹介することが中心。そのほか輸出機会の探求、競争力の評価、代理店の斡旋、支払条件についてのアドバイス、関税、アクセスの問題などマーケティング全般にわたって、カナダの製造業者の相談に応じることも重要な仕事である。

商務部はさらに、ライセンス提携、合弁事業、産業投資などを通じて、カナダへの工業技術の導入を奨励し、同時に、技術輸出や日本での合弁事業を希望する